

令和5年度 園内研修報告書

テーマ

幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫
～心動かされる体験を通して～



園内研修メンバー

園長 糸洲 修 教諭 知念 麻末子
補助教諭 木藤 弘美

南城市立久高幼稚園

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目標	1
III	方法	1
IV	内容	1・2
V	園内研修年間計画	2
VI	実践事例	4
VII	成果・課題・対応策	11

幼児が遊びこむための環境構成と援助の工夫 ～心を動かされる体験を通して～

I テーマ設定の理由

近年、少子高齢化、核家族化、グローバル化などの急激な社会の変化を受け、子どもをとりまく環境も大きく変化している。そのような社会を生きていく子ども達には、自分で考え判断する、進んで行動する、意欲をもって活動するなど主体的に遊びこむ力を育むことが求められる。幼稚園教育要領解説第4節3項の(2)には、「幼児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること。」と明記されている。心を動かされる体験は、様々な人との関わり、自然との関わり、ものとの関わり、生き物との関わりなど幼児が周囲の環境と関わることを通して積み重ねられていくものであると考える。そのため、教師は、幼児が様々な環境と関わる中で、心を動かされる体験を積み重ねていけるように、適切な環境構成と援助の工夫を考える必要がある。

本園のある久高島では、過疎化と高齢化が進み子どもの数が少なくなり、子どもの遊び場所や遊び相手も限られている現状がある。小さな島で人と人との距離が近く、地域の人が園児のことを気にかけてくれているなど島全体で子ども達を見守っている雰囲気がある。本園の実態として現在、3歳児1名、4歳児1名、5歳児6名の計8名で異年齢保育の小規模園である。製作遊びや色水遊び、虫捕りや運動遊びなど様々な遊びを楽しんでいる。3歳児と5歳児では生活経験や興味関心を示すものや遊び方が大きく異なる。その中で、遊びが続かずに、色々な遊びを転々とする子や、自分の思いだけを主張し、相手の気持ちを考えたり受け入れたりすることが苦手な子もいる。

そこで、幼児が活動に没頭する中で思考を巡らし、心を動かされる豊かな体験を通して遊びこむことで幼児が意欲をもって積極的に周囲の環境に関わっていくことができると考え、本テーマを設定した。

II 目標

身近な人や自然、ものとの関わりの中で心を動かされる体験を通して、幼児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を工夫する。

III 方法

- 1 「幼児が遊びこむような経験」の実現に向けて保育の改善を図る。
- 2 カリキュラム・マネジメントを通して、明日の保育につながる振り返りを実践し、保育の質の向上につなげる。
- 3 幼児が心を動かされる体験ができるような環境構成の工夫と援助の仕方を探る。

IV 内容

- 1 テーマに関する、理論研修を行う。
- 2 幼児の興味や関心に沿って、室内、園庭の環境を見直し工夫、改善する。
- 3 保育ドキュメンテーションを取り入れる。保育内容の可視化（保護者向けに日々の様子を掲示し情報共有を図る）
 - (1) 遊びこむためには
幼児が自分でやりたいことを見つけ、物事に熱中するように環境構成や援助の仕方を工夫する。
(自己を発揮する。遊びや生活の中に目的や目標をもつ。いろいろな事に興味・関心をもって自ら意欲的に関わっていく。自分で遊びを選択し、自ら遊びを展開し、自ら問題を

解決しようとする。(見通しをもって、遊びをやり遂げる。)

「遊びこむ」とは、遊びに集中する中で、その子らしい発想が生かされて遊びが深まったり広がったりしながら継続して展開されている状態のことをいう。そこには、時間・空間・仲間の三つの間が必要である。我を忘れて「遊びこむ」ほどの楽しさを知ることが「遊びきる」ことにつながる。「遊びきる」とは、友達と一緒に自己発揮をしながら十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態である。

(2) 心を動かされる体験

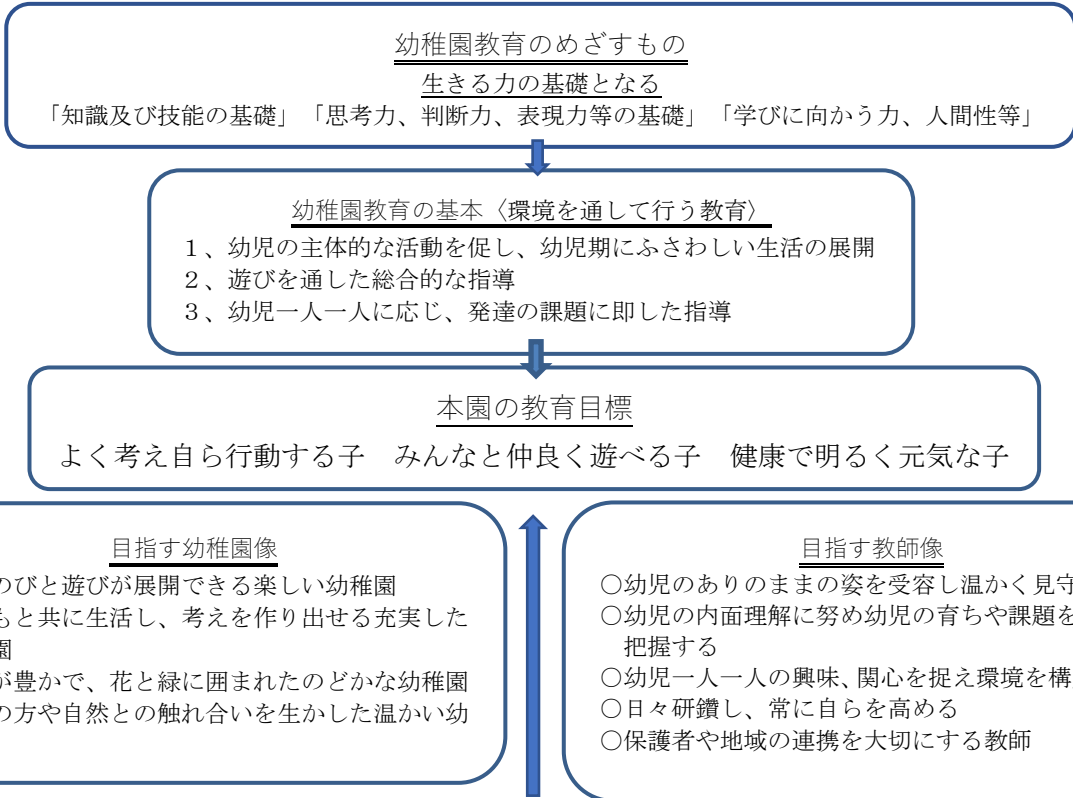
心を動かされるというのは、驚いたり、不思議に思ったり、嬉しくなったり、怒ったり、悲しくなったり、面白いと思ったりなど、様々な情動や心情がわいてくること。このような情動や心情を伴う体験は、幼児が環境に心を引き付けられ、その関わりに没頭することにより得られる。

そして、そのような体験は幼児の心に染み込み、幼児を内面から変える。また、幼児を内発的に動機付ける。すなわち、その体験から幼児自身が何かを学び、そして新たな興味や関心がわいてくるのである。

V 園内研修年間計画

月 日	研 修 内 容
5月	・園内研修 テーマ設定の検討(幼児の実態把握を基に話し合う)
5月10日(水)	・園内研修取り組み説明会
5月26日(金)	・幼児教育施設保育者研修会(市主催) 講師:名渡山 よし乃氏 講話「遊びこむための環境構成の工夫と援助」
5月～3月	・日々の保育の振り返り 期の振り返り 幼児の変容の読み取りと環境構成・援助の見直し 園内環境の見直し、改善
7月13日(木)	・幼児教育センター保育支援訪問:保育参観・懇談(保育の振り返り) 幼児教育アドバイザー 大城 美恵子 幼児教育推進コーディネーター 伊集 恒子 教育指導課係長 仲本 留美子 こども保育課係長 大城 奈々子 こども相談課 保育支援員 親川 裕子
12月	・成果と課題について
2月22日(木)	・園内研修実践報告会

令和5年度 構想図



テーマ
幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫
～心を動かされる体験を通して～
目標

身近な人や自然、ものとの関わりの中で心を動かされる体験を通して、幼児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を工夫し、子どもが遊びこめる経験の実現を目指す。

幼児の実態

- 1、製作遊びが好きで、様々なものを作ることを楽しんでいる。戸外遊びも好きで、色水遊びや虫捕りなどを楽しむ姿も見られる。
- 2、遊びが続かず、遊び場を転々とする姿も見られる。
- 3、異年齢、小規模保育で、小中学生や地域の方や豊かな自然など様々な環境と関わりながら園生活を送っている。

保育の見直し

- 1、幼児理解に努める。
- 2、子どもの姿を読み取る。（興味や関心、発達等）
- 3、保育者の願い（こんなふうに育ってほしい）
- 4、保育の計画を立てる（夢中になる遊びを考える）
- 5、環境の構成 指導の手立て
（遊びこめるための環境構成や援助の工夫に努める）

方法

- 1、「幼児が遊びこむような経験」の実現に向けて保育の改善を図る。
- 2、カリキュラム・マネジメントを通して、明日の保育につながる振り返りを実践し、保育の質の向上につなげる。
- 3、幼児が心を動かされる体験ができるような環境構成の工夫と援助の仕方を探る。

内容

- 1、テーマに関する、理論研修を行う。
- 2、幼児の興味や関心に沿って、室内、園庭の環境を見直し工夫、改善する。
- 3、保育ドキュメンテーションを取り入れる。
保育内容の可視化（保護者向けに日々の様子を掲示し情報共有を図る）

まとめ（成果、課題）：12月

成果報告：2月22日

VI 実践事例

事例1 「カバマダラがたくさんいる！」 3歳児～5歳児（6月～）

《幼児の実態》




- ・虫や生き物に興味があり、「虫捕りしたい！」「虫探しに行こう！」と言って虫捕りを楽しんでいる。
- ・その生き物について調べたり、観察したりすることは少なく、虫や生き物を捕ることだけを楽しんでいる。

《教師の願い》

- ・身近な自然の美しさや自然に触れる体験をしてほしい。
- ・生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになってほしい。
- ・身近な生き物に興味を示し、調べたり表現したりするなど遊びを深めてほしい。

《環境構成》

- ・4月から新園舎になり、植物がほとんど無い状態で新学期が始まった。トウワタやチョウマメ、ジュズダマ、オシロイバナなどを植え、子どもたちが植物に触れて遊ぶことができるような環境を整える。
- ・生き物や虫を捕まえたときに、観察しやすい環境作りをする。また、もっと知りたい調べてみたいと思ったことをすぐに調べることができるように図鑑や絵本を準備する。
- ・発見や気づきを絵に描いたり表現したりすることができるように、画用紙や鉛筆、ペンなどを準備する。

◆環境構成	○教師の援助	□幼児のつぶやき	※教師の思い	☆次につなげたい幼児の姿
<p>園庭で遊んでいるときに、カバマダラを見つけて喜んでいる子どもたち。</p>  <p>せんせい！ちょうちょみつけた</p> <p>あ！これみたことある</p> <p>今まで見たことある子が、「あ！これみたことある！」「なまえなんだったっけ？」と言い、教師や友達に伝えている。</p>  <p>おんなじやついるかな？</p> <p>あ！いた！これだ！</p> <p>そうだ！カバマダラだったねまえのようちえんでみつけたことある！</p> <p>せんせい！みて！あったよ！なんてなまえかいてある？</p> <p>☆分からないことを図鑑で調べている</p>	<p>◆新園舎に引っ越し、ほとんど植物が無く、虫や生き物も少なかったので、トウワタをたくさん植え、カバマダラが来るようにした。</p>  <p>なまえなんだっけ？</p> <p>すかんでしらべてみよう！</p> <p>○「なまえがあるんだね！」「なんてなまえかな？」などと言い、子どもたちがもっと知りたいと思えるような言葉かけをした。</p> <p>◆図鑑や絵本を用意し、すぐに不思議に思ったことや知りたいことを調べることができるようにした。</p> <p>○子どもたちが知りたいと思ったことを調べる姿を見守り、教師も一緒に調べる。</p>	<p>せんせい！ちょうちょみつけた</p> <p>あ！これみたことある</p> <p>おんなじやついるかな？</p> <p>あ！いた！これだ！</p> <p>そうだ！カバマダラだったねまえのようちえんでみつけたことある！</p>	<p>◆新園舎に引っ越し、ほとんど植物が無く、虫や生き物も少なかったので、トウワタをたくさん植え、カバマダラが来るようにした。</p> <p>○「なまえがあるんだね！」「なんてなまえかな？」などと言い、子どもたちがもっと知りたいと思えるような言葉かけをした。</p> <p>◆図鑑や絵本を用意し、すぐに不思議に思ったことや知りたいことを調べることができるようにした。</p> <p>○子どもたちが知りたいと思ったことを調べる姿を見守り、教師も一緒に調べる。</p>	<p>☆次につなげたい幼児の姿</p>

カバマダラを捕まえて、「育ててみたい。」と言っていたが、狭い虫かごの中で、少しずつ弱っていくカバマダラを見て、「かわいそうだから逃がしてあげよう。」と言い、逃がしていた。

毎日園庭で虫捕りを楽しんでいると、トウワタの葉っぱにカバマダラの幼虫を見つけ、観察してみることになった

カバマダラのあかちゃんだよ！

毎朝、登園するとカバマダラの幼虫を観察する姿が見られた。また、年長児が年少児に「カバマダラの幼虫は、トウワタが好きなんだよ。」と教えている。

きのうより
おおきくなって！

ほんとだ！

いろが
かわってる
かんじがする！

ねえ！みんな！
カバマダラの
あかちゃんが
なんかかわって
るよ！



※成虫だけでなく卵や幼虫、さなぎなどの変化する過程を実際にみれるといいな。

これなんだろう！

カバマダラ
のようちゅう
だよ

なにそれ？



◆子どもたちが幼虫を観察することができるように、環境を整えた。

○トウワタの葉っぱを取りに行ったり、毎日カバマダラの幼虫の観察場所を掃除したりして、子どもたちと一緒にカバマダラを育てる環境作りをした。

○一人一人の気付きやつぶやきを受け止め、他の子にも共有した。

おなかすいてないかな？

トウワタのはっぱ
たべるんだよ！

トウワタっておそとに
あるよね？
とってこよう！



☆毎日観察する中で、大きさや色の変化に気付いて、友達や教師に伝えている。



え！ほんとだ！

なにこれ！
みどりいろにな
ってるよ！

あ！これさなぎだよ！

なんかうごかないね！

ねむってるんじゃない！



さなぎになっていることに気付き、不思議そうに観察している。

○さなぎになる瞬間を動画で撮り、子どもたちがタブレットですぐに観ることができるようにした。

ドキュメンテーションや園庭にいるカバマダラの幼虫を保護者と一緒に見て、カバマダラについて伝えている。

さなぎになったんだよ！

ママ見て！
これカバマダラだよ！

ほらみて！このはっぱがトウワタ！たくさん幼虫がいるでしょ！

ようちゅうは、トウワタがすきなんだよ



みて～！
ちょうちょになっているよ！

はね かわかしてるから
さわらないほうが
いいよね！

とべるようになったら
カバマダラさんおそとに
にがしてあげよう♪

カバマダラさん
またね～



◆子どもたちが興味を示していることを保護者にも伝えるためにドキュメンテーションを作り、玄関に貼った。



☆幼虫からさなぎ、成虫という過程を観察する中で、カバマダラを大切に思う気持ちが育ち、「お部屋だったら狭いからおそとに逃がしてあげよう。」と言って、みんなで逃がしている。



大きなえほん
つくろう！

これは、
トウワタ！

トウワタの花って
何色だった？

一回おそとで
見てくる！

※カバマダラを育てた経験が身近な動植物に興味を示すきっかけになると良いな。
※この経験を絵に描いたり製作遊びをしたり、表現遊びをしたりと遊びがさらに広がるといいな。

◆子どもたちが好きな絵を描いたり製作したりすることにつながるように絵の具や様々な大きさの紙を準備した。

カバマダラ
かいたよ！



○絵を描いたり、絵本作りをしたりすることが好きな子がいるので、みんなでストーリーを作り、劇遊びを楽しめるようにした。

今までの園生活の中で絵本を作り、友達に読み聞かせをした経験があったので、大きな絵本を作る！と言い、友達と協力して作っている。出来上がった絵は、生活発表会で劇として披露することになった。



《考察》

- ・園庭で幼虫を見つけ、幼虫について詳しく知りたいと思い、図鑑で調べたり、友達に聞いたりして、身近にあるものや人から必要な情報を得ている。【思考力の芽生え】
- ・飼育している幼虫がどんなさなぎや蝶になるのか予想する楽しさや、幼虫が変化したうれしさや初めて見た驚きを友達と共有している。【言葉による伝え合い】【協同性】
- ・友達と一緒にエサとなる植物をとってきたり、観察・飼育する環境を作ったりしている。毎日、何度も観察することで、新たな発見につながっている。【協同性】【自立心】
- ・羽化した蝶を保育室で観察したあと、「カバマダラさん、広いお空が好きだから逃がしてあげよう。」と言い、みんなで逃がしていた。【自然との関わり・生命尊重】

事例2 「めざせ！イラブーはかせ！」3歳児～5歳児（6月～12月）

《幼児の実態》

- ・様々な生き物に興味があり、戸外遊びの際や散歩に出かけたときなどに様々な生き物を見たり捕まえたりして楽しんでいる。
- ・園庭にイラブーの赤ちゃんが来たことを切っ掛けにイラブーに興味を示し、調べたり保護者に聞いたりしている。

〈エピソード1〉 あ！イラブーの赤ちゃんだ！

- ・6月頃に、園庭でイラブーの赤ちゃんを見つけ、興味を示している。

へびがいるよ！

これイラブーの赤ちゃんだよ！

イラブーってなに？

パパが海でとってたよ！

初めて見た！

海にいるへびだよ！

- ・保護者がイラブー漁をしている子もいて、イラブーについて教師や友達に嬉しそうに教えている。
- ・初めてイラブーを見た子は、不思議そうに観察したり、友達の話の聞いたりしている。
- ・送迎の際に島出身の保護者にイラブーについて話を聞き、海に住んでいると知った子どもたちは、イラブーの赤ちゃんを海に返そう！という話になった。

※興味を示していることについて調べるチャンス！

○絵本コーナーや図書館から子どもたちと一緒に図鑑を探して、準備をした。



イラブーのこと書かれてないね～

イラブーいるかな？

しましまだったよね

パパだったらイラブーのことわかるはず！

・イラブーについてもっと知りたいと思い、図鑑で調べたり、保護者に聞いてみると言ったりしている。

◆みんなでイラブーについて話す場を設けた。

※幼稚園にある図鑑を見るだけでは、分からないことも多いので、実際にイラブーを見せてあげたい。また、地域の方にイラブーについて話を聞く機会を設けたい。

〈エピソード2〉イラブーはかせにきいてみよう！

○子どもたちがイラブーについて興味を示しているので、地域の方に相談してイラブーの燻製をしているところを見に行くことができるように相談した。

・子どもたちや地域の方と相談し、イラブーを見に散歩に出かけることにした。

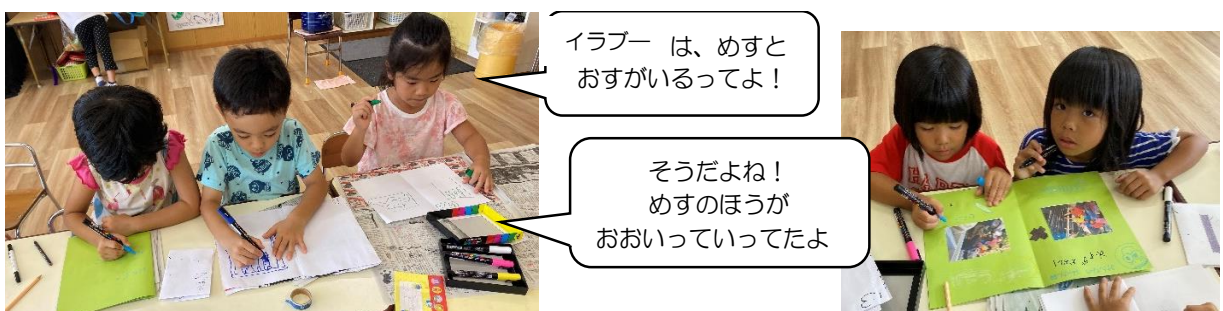


・実際にイラブーを見たり触れたりにおいを嗅いだりした子どもたちは、驚きや感想などを言葉で表現している。また、不思議に感じたことを地域の方に質問する姿も見られた。園で見たイラブーの赤ちゃんとの大きさや色の違いに気付いたり、卵や皮も見せてもらったりと図鑑などで調べるだけでは分からない発見が沢山あり、さらに深くイラブーのことについて知ることができた。

〈エピソード3〉イラブーはかせにいろいろなことをおしえてもらったよ！

・散歩から帰ってきた子どもたちは、イラブーの絵を描きたいから、「紙ちょうだい」と言い、絵を描き始めた。

最初は、絵を描くだけだったが、描きながら島の人に教えてもらったことを振り返り、気付きや発見も紙に描くようになった。



・絵を描くだけでなく、イラストを見に行き気付きや発見、不思議なことなどを書いて、絵本や図鑑を作ってみる等遊びを深めてほしいと思い、写真を画用紙に貼り、子どもたちがドキュメンテーションのようなものをつくることできるようにした。

子どもたちは、島の人に教えてもらったことだけでなく、実際に見たり触ったりして感じたことなども書いて、絵本や図鑑を作っていた。

・これまでの園生活の中で絵本を作ったり、小中学校の図書館に行って絵本を読んだり絵を描いたりする経験があったので、すぐに「絵本を作りたい。」「イラスト図鑑作る!」と言い、遊びが広がっていった。

◆子どもたちが作った絵本や図鑑は、保育室の入り口に掲示し、保護者にも見えるようにした



イラストにはどくがある。





イラストのかわはおまもりへんしんする

イラストは、手でつかまえる。



きれいだった。けどかわいそう...



ママみて!
これ、〇〇がつくったんだよ!

今日ね、イラスト見にいったよ!



たまご ぶにぶに

明日の保育につながる振り返り

〈エピソード3〉「めざせ!イラストはかせ!」

・感じたことや不思議に思ったことなどを友達や教師に伝えたりする中で、「どうして毒があるのかな?」「どうやってつかまえるのかな?」など、さらに疑問に思うことが出てきた。

○イラストを見たり、地域の方から話を聞いたりして、それぞれが感じたことや知ったことを伝えたり、友達の気付きなどを聞いたりして、さらに遊びが広がるといいな。と思い、子どもたちと一緒にイラストについてウェビングマップを使って話す場を設ける。

むしあみだったら つかまえられるぞ

めすかい いしはのいいる

2かい かまれたら しんじょう

いしのなかに いる

おすしめすかい

わまれても しなない

うみで いきてるからかな?

でも 2かい かまれたら しんじょうよ

どうやって つかまえるのかな?

め から びーむをだして つかまえるんだよ!

てで つかまえるってよ!

め から びーむだしたら すぐ しんじょうよ!

どくが あるから かまれても しなないよ

いらぶーって いしのなかにいるんだよ みたことある!

○ウェビングマップを活用し、子どもたちの気付きや発見などをホワイトボードに書き、共有できるようにした。

・子どもたちは、「もっとイラブーのこと知りたい!」「イラブーはかせみたいになりたい。」と話していた。また、「イラブーはかせに教えてもらったことをみんなに教える!」という話になり、「発表会で見せよう!」ということになった。

いらぶーには、どくがあるよ!

いらぶーは、いしのなかからでてくるよ!

・発表会では、子どもたちが作ったイラブーについての生活劇やイラブーについての絵本を地域の方々にも披露することができ喜んでもらったことで、「イラブーはかせ」としての自信につながった。

【考察】

・最初は、園庭に来たイラブーの赤ちゃんを見るだけだった子どもたちがだったが、実際にイラブー漁をしている様子を見たり、触れたり、地域の方に話を聞いたりすることで興味関心が高まり、さらに知りたいという気持ちが育っていった。【思考力の芽生え】【社会生活との関わり】【自然との関わり・生命尊重】

・気付きや発見、不思議に思ったことなどを友達や教師に伝えていた。【言葉による伝え合い】

・実際にイラブーを見たり触れたりにおいを嗅いだりと体験したことを一つの大きな絵に描いて表現している。【協同性】

・地域の方に教えてもらったことや感じたことなどを絵本や図鑑を作ったり、生活発表会の劇で表現したりすることで遊びが広がっていた。また、子どもたちの発見や気づきを地域の方や保護者に伝える切っ掛けにもなった。

Ⅶ 成果・課題・対応策

《成果》

- ・ウェビングマップを活用し、子どもたちと明日の保育につながる振り返りを実践したことで遊びの共有化が図られ、絵本づくりや生活発表会へ意欲をもって取り組み、遊びこみにつながった。
- ・身近な生き物を育てる体験を通して、「もっと知りたい、調べてみたい」という気持ちが芽生え、命を大切にすることが育っている。
- ・地域の方や保護者にも子どもたちが興味を示していることを伝えることで、実際にイラブーを見に行く体験ができ、さらに遊びが広がっていった。
- ・久高島の身近な自然や地域の方、小中学生と十分に関わり心動かされる体験をすることで、幼児の好奇心や探究心が膨らみ遊びが展開継続し遊びこみにつながった。

《課題・対応策》

- ・各年齢の発達段階を踏まえながら、幼児一人一人に合った言葉かけや援助の更なる工夫。
- ・今後も地域や家庭、小中学校との交流を深め、心動かされる体験を通してさらに遊びこむことができるような環境構成や援助の工夫を考えていきたい。
- ・ドキュメンテーションを作成する際に、幼児の姿や育ち、興味関心などが伝わるよう写真の撮り方や伝え方を工夫する。

